

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係

〒285-0025  
佐倉市 錦木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ 青春十八きつぱ ..... 鈴木 綏 通過儀礼 ..... 渡邊堅志  
3 ページ 兎追いし彼の山 ..... 伊藤弘輝 ヤップ島の石貨 ..... 伴 通正

## 新春に寄せて

佐倉市長 藤 和雄



き続き、継続して発行する中で『なかま』が更なる飛躍を遂げられますよう心より願っております。

私は、佐倉市長の職に就任し、三度目の春を迎えることとなりました。これも一重に市民の皆様のご理解とご協力によるお蔭と、心より感謝致しております。

新年明けましておめでとございます。市民の皆さんには、健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。  
毎月発行されている『なかま』が、初刊以来一度も休むことなく、来月には記念すべき四〇〇号を迎えるにあたり、編集に携わる方々の弛まぬご努力に深く敬意を表する次第でございます。今後も引

昨年、乳幼児医療費助成の継続、市立保育園整備への道筋、地域包括支援センター五カ所の開所、広域型特別養護老人ホームの誘致、消防団をはじめ民間バス・高齢者クラブ・シルバー人材センターなどへの支援、小・中学校耐震補強及び改築工事、主要道路の整備、志津霊園問題の解決への道筋など、福祉・健康・教育をはじめとする生活環境の改善などの施策に取り

組むことができました。一方、社会に目を向けますと、アメリカの政権交代をはじめ、裁判員制度の開始、第四十五回衆議院議員選挙に伴う政権交代、国連・気候変動サミットなど、従来の制度や認識を改め、新たな取り組みが始められております。

今回、今年の干支であります「寅」という字を、私の趣味であります書道で書かせて頂きましたが、「寅」は、「決断力」と「才知」を持つと言われております。地方分権時代、変革の時代であり、寅のように才知を持って決断し、当市の持つ特性を生かしたまちづくりに取り組み、更なる躍進の年にしてまいりたいと考えております。

結びに、本年も皆様におかれまして、ご健勝で充実した年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

## 青春十八きっぷ

私は平成十八年三月末日、四十年間に亘るサラリーマン生活に別れをつげた。寂しくもあつたが、ついにここまで来たかと、どこかでホツとしたことを覚えている。

その一ヶ月前に同じ職場仲間が退職していたが、その友人から「青春十八きっぷ」で京都に行こうと誘われていた。まあ卒業旅行といったところである。ただ私は青春十八きっぷがどんなものであるかあまり知らず、各駅停車の旅であるとの説明を受け、ウツと言葉を詰まらせた。それまで出張あるいはプライベートでも当然新幹線、飛行機を利用してはいた。一方友人も旅慣れで、それゆえなおさら利用してみたいとのことである。

七時四十分発、熱海、浜松、豊橋、大垣、米原で乗換えて京都市着午後四時四十二分、ほぼ十時間かかった。ただ時間はかかるが運賃は乗り放題で、一日二千三百円となんとお得であろう。まあ学生向けの期間限定ものだと思えば納得できる。

さて、いざ利用してみても飽きないかと言われれば嘘になるが、途中で乗り換えがあり、途中下車自由、駅弁を堪能、トイレにも難もなくまさに快適、なにか「旅」をしたナーとの気分になり、これ以降同じきっぷを度々利用している。

考えてみればいままで時間に追われた生活をしてきた。これからは急ぐときは急ぐが基本は「ゆっくり」で良いと思っている。周りのいろいろな景色を楽しみながら…。

(ユーカリが丘 鈴木 綾)



## 通過儀礼

医師は、診察用の器具をのぞきながらこともなげに「だいぶ進行していますから手術した方が良いでしょう。どうされますか？」と問いかけてきた。ここ数年定期検診を受けているA眼科でのこと。半年前の検診では、白内障が始まってはいるが、未だ様子をみればいいでしょうと言われていたにもかかわらずである。突然の宣告だったので一瞬戸惑ったが、口を衝いて出たのは、いかにも冷静を装って「やるなら早い方がいいと思うので、お願いします」という言葉だった。続いて、二、三十分で済む日帰り手術であること、麻酔をするので痛みは全くないこと等、こちらの安心するような事を幾つか説明してくれた。もう引っこ込みのつくものではなかった。

手術日の二週間程前、「術前検査」と称して、心電図や

採血、抗生剤の反応テスト等を受けた。一通り検査を終え、これで終わりかと思つたら別室でVTRが始まった。実は、白内障の手術について事前にネットで調べた際、動画説明もあつたのだが、生々しくとても見る事ができなかったのである。しかし、今度は否も応も無かつた。私以外にも数人一緒だったので、目を瞑<sup>つぶ</sup>つたり下を向いているわけにもいかず、意に反してじつと見てしまった。今はどんな手術に対しても、このように丁寧な説明をするのだろうか。肝<sup>かん</sup>つ玉の小さい当人の心配をよそに、手術は無事に終わった。年を重ねる上での通過儀礼を、又一つ越えた思いだが、左右両眼に埋め込まれた人工の水晶体を通して見る世界は、今、すこぶるクリアーである。

(上志津 渡邊 堅志)



## 兎追いし彼の山

「小鮒釣りし彼の川…」と詠われた「故郷」。初めて聞いた時、兎つてそんなに美味しいのかなあー、小鮒つてどんな魚かなあーと思いましたが、谷川連峰を源流とする清流・魚野。夏休みには大川に刺さりつ放し。ガス灯を照らしての鰻の夜突き、八ヨのすすつ掻き、鰻の伏せ針。山女、オイカワ、鮎、鱒、鮭が泳ぐ。梅花藻が繁る支流での雑魚漉き。泥鰌や小魚に混じって、赤っ腹のイモリがつ！「うわー」と叫んで陸に放り投げる。段々田圃や湧き水にはタニシ、カワニナ、サワガニが。夏のホテル、秋には数え切れない赤とんぼの群れが行き交う。これが故郷の思い出です。五十年の時が流れ、今では佐倉に定住、フリーな生活。少し古びてきた二人住まいの日々を持って余し、何か、お返しが出来たら？と考えました。



(上座 伊藤弘輝)

植林を頭に描きつつ「こうほう佐倉」に出た「佐倉里山クラブ」の活動に応募。これが自然保護活動に繋がる一歩でした。水溜りのような印旛沼。流れ込む汚れた河川。農道には家庭ゴミやビニール袋が散乱。草花々の田圃。斜面林を切り崩し造成された住宅地。そんな思いの中で里山仲間から得られた専門知識。少しずつですが、未だ自然が残り、生物の多様な佐倉の地形を知ることが出来ました。人との関わりの中での生物多様性。その絶滅危惧種の保護活動に汗する人達。その支えとなればと、見よう見真似で日々頑張っております。機会が有りましたら「サンバ舞う」(仮称)佐倉西部自然公園、畔田沢流域を訪ねて見て下さい。きっと、心と風景に出会える事でしょう。

## ヤップ島の石貨

昭和五十年代なかば、南の島で空港を造っていました。その島の名はヤップ島と言います。赤道に近い太平洋に浮かぶヤップでは「石貨」が使われているのです。石貨とは真中に穴の開いた石のお金です。直径が二十センチの小さいものから、直径四センチ以上、重さ五グラムという大きいものもあります。

石貨の材料は、四百キロ離れたパラオ島に産出する「結晶石灰石」です。その切り出し場所は海岸から遠く、海まで運ぶだけでも大変です。さらに力強いヤイカダで運搬には片道七日も掛かります。パラオ人の襲撃や嵐もあります。命がけて運んだ物ですからそれにまつわる物語があります。石貨の価値は、その故事来歴で決まります。それらが今でもいるいるな取引に使わ

れているのです。しかし取引があつても、石貨の所有権が代わるだけで、石貨の置き場所は動かしません。ヤップの人々はその石貨がどのような取引に使われて、誰のものかは皆わかっているのです。石貨は、結婚、出産などの儀礼的交換、集落、親族相互の問題解決時、宗教、政治、和解的役割、家の建造、医療等などに対する礼金、力などなどの購入手段として使われています。一方、給料の受取り、日用品の購入にはアメリカドルが使われています。

国内で石貨が見られるのは日銀の貨幣博物館、日比谷公園などです。わが家にもあります。島を離れる時にヤップの大酋長から贈られたものです。持つて帰るのに知恵をしぼったことが懐かしく思い出されます。



(上志津 伴 通正)

## 1月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

### さくら道

忘年会で友人に詩吟の前説を頼まれた。直江兼続の詩である。その中に「江南の良策」が用いられず、今は唯芋を焼くとのくだりがあった。

「江南の良策」とは、関ヶ原の戦いの前、上杉軍が徳川家康を会津にさそいこみ、これを撃破しようとした兼続が立てた策という。兼続は自分を呉の名将周瑜になぞらえ、周瑜が曹操を赤壁で破ったように、

家康を破ることができると思っていたようである。

本当に家康を破ることができたのか、また破った後、どのような日本を作ろうとしたかは不明であるが、為政者としての兼続の自信には驚かされる。

今の日本に兼続のように、自信を持って政策を語る政治家はいるか。自信を持って国民を導く政治家がほしいものである

（岡本文隆）

### あとがき

新年あけまして  
おめでとうございます  
心清々しく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます

旧年中は大勢の皆様からのご投稿有難うございました。私、小紙『なかま』の編集委員の仲間入りをして日が浅く目下見習中ですが、この間感銘しましたことはご投稿者の方どなたも限られた少ない

字数内にご自身のご意向を見事に表現されていることです。私、本欄の担当にあたりうまく纏められず、大苦戦です。また、ご投稿者並びにご愛読者の皆様とは、紙面上でのご対面（？）ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

（田中修司）